

普及活動情勢報告（令和3年3月分）

高吾農業改良普及所

文旦の剪定講習会、目慣らし会を開催しました。



2月19日、JA吾川支所柑橘部会で文旦の剪定講習会、目慣らし会が開催され、生産者6名が参加しました。

各生産者が樹形や作業性、日当たりを考慮しながら剪定を行いました。また、目慣らし会では、黒点病や日やけ果の程度による等級分けについて意見を交換しました。

農業改良普及所は果実分析の結果を報告し、今年の水旦の品質・味の傾向について確認を行いました。今年は、例年に比べ酸度が低く、おいしい水旦に仕上がっています。

今後も農業改良普及所は、水旦の生産安定に向けた活動に取り組めます。

集落営農組織が合同勉強会を行いました



2月16日、佐川町の集落営農組織「斗佐耕楽会」と「(農)トピアとかの」が合同で水稻技術勉強会と意見交換会を行いました。

今年両組織共通の課題となったスクミリングガイと水稻雑草対策について農業改良普及所の水稻担当から技術指導したあと、JAから資材の情報提供を行いました。その後の意見交換では「近隣のは場管理を行っているので、今後も情報交換を行う」、「集落営農組織としてまとまることで資材の共同購入ができれば良い」等の活発な意見が出ました。

これからも農業改良普及所は、関係機関とともに集落営農組織の連携について支援していきます。

令和2年度第2回高吾地区農業改良普及推進協議会を開催しました



3月3日、JA越知支所にて、高吾地区農業改良普及推進協議会を開催しました。協議会構成員17名が参加しました。

農業改良普及所は、普及指導実績や来年度の計画（案）について担当職員が説明しました。

委員からは「ニラ生産部会の秀品率をアップさせたい。」「ニラ生産女性の勉強会の継続支援をお願いしたい。」「トマトの高糖度率を高めるために技術指導の継続をお願いしたい。」と幅広く積極的な意見や提案をいただきました。

農業改良普及所では委員の皆様の意見を参考に、来年度の普及計画書の作成や普及活動に活かしていきます。

令和2年度佐川支所苺部会第3回月例会を開催しました。



2月22日、黒岩野菜集出荷センターにて、JA佐川支所イチゴ部会第3回月例会が開催され、生産者11名が参加しました。

農業改良普及所からは、ハダニ類の防除と春先以降の苺の栽培管理について指導を行いました。生産者からは「ダニがいない所にチリカブリダニをいれてもいいのか？」等、活発な質問がありました。

来年度も農業改良普及所は月例会の定期開催を支援し、栽培技術の向上や産地の担い手確保・育成に取り組んでいきます。

夏秋高糖度トマトの定植が始まりました。



仁淀川町では夏秋高糖度トマト（4戸）の定植が3月4日から始まりました。各戸のハウスの標高が異なるため、定植は4月上旬まで続きます。

高糖度トマト栽培では定植から約一か月間のかん水管理が重要になります。農業改良普及所では生育状況に応じたかん水管理指導を行うとともに、土壌及び植物体中の硝酸態窒素の量を測定し、適切な施肥管理ができるよう指導しています。

農業改良普及所では、今後も現地検討会や個別巡回を通じて、安定生産できるよう支援していきます。